

ノンスキッド施工前の共通手順の説明

基本手順



1. 施工環境・下地の確認

《環境の確認》

施工場所の温度や湿度が施工時及び施工後に大きく影響します。特に冬場の施工に関しては作業環境温度の管理が重要となります。温度10～25℃、湿度75%以下が望ましく、施工前後は接着剤の種類に応じた養生時間を取るようしてください。また、接着剤の保管温度も5℃以下にならないようしてください(変質・分離する場合もあり、0℃以下では凍結して使用不可になる場合もあります)。

《下地の確認》

●平滑性

下地に不陸や亀裂、段差、隙間などがないか、床全体が平滑であるかを調べてください。平滑性に欠け凹凸のある床は、接着剤を均一に塗布できません。凹部に接着剤がだまりをつくり、ジョイントから接着剤がはみ出す原因になったり、溶剤によるガスで膨れの原因になったりします。凸部は接着剤の塗布量が少なくなることで接着力が低下したり、施工後の部分的な摩耗の原因になり、耐久性に支障をきたすことになります。階段の蹴込み面も不陸を必ずチェックして基準値内におさめるようしてください。

●汚れ

下地の汚れは、接着剤の接着力を落とすばかりでなく、床材の変色を招く場合があります。そのためゴミや埃、モルタルかすが残っていないか、油や錆がついていないかなどを調べてください。特に塗料や防蟻剤、防腐剤、オイルステン配管用接着剤などの油を含む汚れは、施工後に床材の変色・変質を起こす恐れがあるので注意してください。

●湿気

下地の乾燥不足は、どんな接着剤でも施工不可能です。水分計やポリエチレンフィルム、バーナーなどを使い下地の乾燥状態を判断してください。下地の乾燥とともに立地条件、下地自体の構造、素材についても注意してください。

●強度

下地の粉吹き・ざらめ・浮きなどがなく十分な強度が必要です。

●取り合い

床下地の壁面に対しての取り合いを確認してください。確認項目は以下のとおりです。

- ・床面と壁面の取り合い部に四方でレベルの狂いがないか。
- ・扉開口部の床面のレベルが、床材の厚み分上がっても問題ないか。

2. 清掃

床にコンクリートかすのゴミ、埃などが残っていると接着剤の塗布に支障をきたすばかりでなく、接着剤の接着力不足の原因になったり、施工後の仕上がりにも影響します。大きなゴミから取り除いた後、埃やチリなどを掃き取ってください。床面積が広い場合、一度に清掃すると場所によって十分にきれいにならないかたり、施工中に再び汚れたりするので、当面施工に必要な部分から清掃してください。清掃後は工事関係者の出入りを禁止し、ゴミや埃を持ち込まないようにしてください。

3. 下地調整

下地の状況に応じて補修、表面補強を適切に行ってください。またその際に使った補修材、補強材によって下地自体の性能が変わることもあるため注意が必要です。

4. 使用商品の確認

施工前に必ず、商品番号、ロット番号、サイズ、数量を確認してください。色ムラを防ぐために、できる限り取り合いのある箇所は同ロットの商品で流れ方向を合わせて施工してください。

下地の乾燥状態の判断方法

■水分計を使用する方法

水分計の接地面が平らでゴミやチリがなく、通風のない場所を選んで下地水分の測定を行ってください。

■ポリエチレンフィルムを利用する方法

約1m角のポリエチレンフィルム(ゴミ袋など)を下地に広げ、空気が逃げないように四方をガムテープで貼り、24時間放置する。その後、フィルム内側に付いた水滴や下地の変色状態を観察し判断してください。

■バーナーを利用する方法

バーナー(トーチランプ)を用い下地表面をあぶり、水滴の有無や変色状態を観察し判断してください。

■株式会社ケツト科学研究所製「コンクリート、モルタル水分計 HI-520-2」による水分測定方法(表面から40mm程度まで)

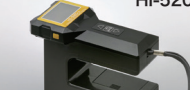
●測定手順

- ①測定対象床下地から、測定対象箇所を適宜選定する。
- ②水分計の各ダイヤルを以下の通りセットする。
D.MODE(厚さ:40mm程度、温度:AUTO設定)
- ③水分計を測定対象箇所の床下地表面に置き、表示値を読み取る。
測定は水分計を置く位置を適宜ずらしながら数回行い、平均的な表示値を求めることとする。

●測定結果の評価:測定表示値を左記表グレードで判断し施工方法の判定を行う。

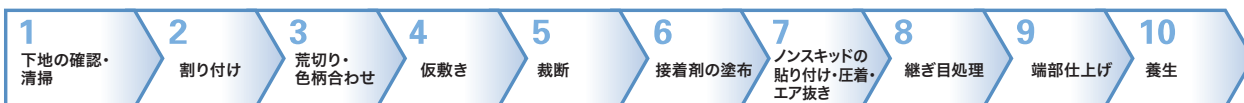
水分計*			水分計以外での確認方法		施工方法の目安
グレード	選択 D.MODE	従来の水分指標	ポリエチレンフィルム	バーナー	
I	440未満	8%未満	24時間後変化なし	下地表面に変化なし	一般工法
IIa	440以上 620未満	8%以上 10%未満	24時間後黒ずみ (輪郭不明瞭)	下地表面が黒ずむ	耐湿工法推奨
IIb	620以上	10%以上	24時間後に変色結露が見られる	下地表面に水滴が浮く	施工不可

*使用水分計: 株式会社ケツト科学研究所
高周波静電容量式水分計「HI-520-2」D.MODE選択による

測定対象・ 範囲	コンクリート	0~12%		HI-520-2
	モルタル	0~15%		
	ALC	0~100%		
	人工軽量骨材コンクリート	0~23%		
	石膏ボード	0~50%		
	ケイ酸カルシウム板	0~15%		
	D.MODE	0~1999		
S.MODE	0~1100			
測定方式	高周波容量式(20MHz)	消費電力	350mW	
表示方法	デジタル(LCD、表示最小桁0.1%)	寸法・質量	72(W)×146(D)×118(H)mm、0.39kg	
電 源	電池 9V(006P アルカリ)×1	付 属 品	ソフトケース、電池、取扱説明書	

ノンスキッド施工説明

基本手順



1. 下地の確認・清掃

砂やチリ、埃などを除去し、適切な下地処理を行い、下地が十分に平滑で乾燥していることを確認してください。
※平鋼板下地は、エポキシ系防錆塗料で十分な防錆処理をしてください。
※詳細は「施工前の共通手順」(P.39)を参照してください。

2. 割り付け

ジョイントが多いと仕上がりが美しくないため、出来る限りジョイントを少なく割り付けてください。長手方向にジョイントを合わせてください。また小さなサイズは、美観を損ねるだけでなく、接着不良による浮き剥がれの原因になるため出来る限り発生しないように割り付けてください。出入口部は踏み込みが多く、ジョイントから傷みや剥がれが起きやすいため、出来る限りジョイントをしないようにしてください。



3. 荒切り・色柄合わせ

施工場所の形などに合わせて割り付けし、それに基づいて実寸法より5cmほど長めに荒切りしてください。
柄物は、1柄分余分に長く裁断し柄合わせをしてください。丈継ぎの必要がある場合は、さらに1柄分長く裁断し、丈継ぎのジョイントと合うように柄を合わせてください。

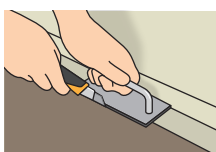
4. 仮敷き

現場の環境になじませ、運搬時の巻き癖、伸縮などを取り除くために荒切りして仮敷きしてください。特に低温時や寒冷地の場合、床材が硬くなっているため十分な仮敷き時間をとってください。

5. 裁断

《巾定規による壁際の裁断》

巾定規は、壁面に対して床材の端が、ピッタリと沿うように裁断する道具です。巾定規の先端にカッターナイフをあて、壁方向に沿わせるように力を加えながら手前方向にカットしてください。



《ジョイントの裁断》

ジョイント部は隙間なくピッタリと納まることが大切となるため、落とし込みまたはリノカッターなどを用いて、けがいてからカットしてください。

6. 接着剤の塗布

ウレタン樹脂系溶剤形接着剤WPX (BB-479・480)・WG (BB-601～603)を使用します。塗布する際は、専用クシ目を使用してムラがないように均一に接着剤を塗布してください。

《接着剤の塗布の仕方》

周囲の壁際に先に切り込んでから床材を接合部から幅方向に向かって左右に折り返し(幅折り返し)、その部分に接着剤を塗布し圧着してください。そして残りの半分をそれぞれ折り返し接着してください。

7. ノンスキッドの貼り付け・圧着・エア抜き

オープンタイムを取り、貼り付け可能時間内に床材を貼り付け、しごき板でエア抜きしてから圧着時間内にローラーをかけてください。空気だまりがある場合は、しごき棒などで目地の方向に向かって押し出してください。空気だまりは下地の湿気の影響を受けて膨れの原因になりやすいため、小さなものでも見逃さず必ず取り除いてください。ヒートガンやトーチランプなどを使用する場合は、熱風の温度が高すぎると、床材表面が溶解しツヤが出る場合がありますので、温度に注意して施工を行ってください。

8. 継ぎ目処理

継ぎ目処理は専用の溶接棒を用いて熱溶接をしてください。

●溝切り

床材の貼り付け・圧着の後、接着剤が完全に硬化してから、継ぎ目部分をU字もしくはV字に溝切りします。
※溝の深さは、床材の厚みに対して2/3程度としてください。
※ジョイント箇所は、溶接後の水捌けを考慮しエンボスの一番低い部分でジョイントしてください。

●熱風溶接

専用溶接機ライスターを使用して目地部分を溶接します。
※熱風の温度が高すぎると、ジョイント周辺の床材表面が溶解し、ツヤが出る場合がありますので十分に注意してください。

●余剰部分カット

溶接棒が十分に固まった状態でスパトラナイフなどを用いて余剰分をカットします。
※溶接棒が固まる前にカットすると、後に溶接棒がヤセ、凹みとなる場合がありますので十分に注意してください。

9. 端部仕上げ

ノンスキッドの端部には、専用シール剤であるWPシール・HSシールを充填して処理してください。

●シーリング部の確認

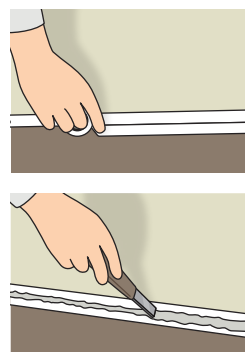
シーリングを施す面が、ゴミや埃などによって汚れていないかを確認してください。汚れている場合は清掃し、また湿気のある場合は十分に乾燥させてから作業を行ってください。

●マスキング処理

仕上がりを美しくするために、シーリング部分にマスキングテープを貼りマスキング処理をしてください。

●充填と仕上げ

気泡を取り込まないようにシーリング面に均一になるように充填し、充填後は平らになるようにヘラで整えてください。ヘラ仕上げの際に、気泡の取り込みによりへこみが生じた場合は、すぐにシール剤をやや多めに充填し、再びヘラで仕上げてください。最後にマスキングテープを剥がしてください。その際テープに付いたシール剤で床を汚さないように注意してください。



10. 養生

施工完了後、床材の浮き、膨れ、剥がれ、突き上げなどの不備や接着剤による汚れがないかを確認します。施工後の汚れや破損を防止するため、必要に応じて養生シートなどで保護してください。また、シール剤が完全に硬化するまでは、シール部分を踏んだり、ブラシなどでの清掃はお避けください。接着剤が完全に乾燥固化するまでは、突き上げ・目隙・膨れなどを発生させる恐れがあるので、重量物などのキャスターによるしごきはお避けください。